

プログラム

【会長講演】

PL 会長講演

11月26日（金） 13時20分～14時00分（第1会場 4階 ホールC）

座長：秋山 治彦（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部）

アルツハイマー病の疾患修飾療法を求めて

岩坪 威

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野／国立精神神経医療センター神経研究所

【特別講演】

SL1 特別講演 1

11月27日（土） 10時00分～11時00分（第1会場 4階 ホールC）

座長：山田 薫（東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野）

Role of APOE in amyloid- β and tau mediated neurodegeneration

David M. Holtzman

Department of Neurology, Washington University in St. Louis, USA

SL2 特別講演 2

11月26日（金） 11時00分～12時00分（第1会場 4階 ホールC）

座長：岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野）

世界認知症審議会（WDC）と Public Private Partnership

黒川 清

日本医療政策機構

SL3 特別講演 3

11月26日（金） 17時30分～18時30分（第1会場 4階 ホールC）

座長：古和 久朋（神戸大学大学院保健学研究科）

The W.H.O Integrated Care for Older Adults (I.C.O.P.E) and Cognitive functions in Older Adults

Bruno Vellas

Alzheimer's Research Clinical Center, Gerontopole, Toulouse University Hospital, France ;
W.H.O Collaborative Center for Frailty, Clinical Research & Geroscience and Geriatric Education

SL4 特別講演 4

11月27日（土） 9時00分～10時00分（第1会場 4階 ホールC）

座長：岩田 淳（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

IMPROVING GENERALIZABILITY OF CLINICAL TRIALS AND VALIDATING PLASMA TESTS FOR AMYLOID, TAU, AND NEURODEGENERATION USING THE ALZHEIMER'S DISEASE NEUROIMAGING INITIATIVE (ADNI)

Michael Weiner

University of California San Francisco UCSF, Medicine, Radiology, Psychiatry, and Neurology, San Francisco, USA

SL5 特別講演 5

11月26日(金) 10時00分～11時00分 (第1会場 4階 ホールC)
座長: 森 啓 (長岡崇徳大学, 大阪市立大学医学部)

An update on trials of disease-modifying drugs for AD

Paul S. Aisen

University of Southern California Alzheimer's Therapeutic Research Institute (USC ATRI), San Diego, CA, USA

SL6 特別講演 6

11月27日(土) 11時00分～12時00分 (第1会場 4階 ホールC)
座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

認知症施策の推進について

土生 栄二

厚生労働省老健局長

【プレナリーレクチャー】

PL1 プレナリーレクチャー 1

11月26日(金) 9時00分～9時50分 (第1会場 4階 ホールC)
座長: 池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

Phosphorylated tau in blood, an Alzheimer's disease pathology specific biomarker

Jeffrey L. Dage

Stark Neurosciences Research Institute, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN, USA

PL2 プレナリーレクチャー 2

11月26日(金) 9時00分～9時50分 (第2会場 7階 ホールD7)
座長: 新美 芳樹 (東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室)

認知症と21世紀社会

三浦 公嗣

慶應義塾大学医学部

PL3 プレナリーレクチャー 3

11月26日(金) 9時00分～9時50分 (第3会場 5階 ホールD5)
座長: 道川 誠 (名古屋市立大学医学研究科神経生化学)

アルツハイマー病モデル動物開発の最先端

西道 隆臣

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム

PL4 プレナリーレクチャー 4

11月26日(金) 9時00分～9時50分 (第4会場 5階 G502)
座長: 阿部 康二 (国立精神・神経医療研究センター)

血管性認知症の病態と治療

富本 秀和

三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学

PL5 プレナリーレクチャー 5

11月26日(金) 9時00分~9時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 水上 勝義 (筑波大学大学院人間総合科学学術院)

認知症の精神療法—いかに向き合い, いかに話すか

繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学

PL6 プレナリーレクチャー 6

11月27日(土) 9時00分~9時50分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 小野賢二郎 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学(脳神経内科学))

認知症の臨床病理学

山田 正仁

国家公務員共済組合連合会九段坂病院内科 (脳神経内科)

PL7 プレナリーレクチャー 7

11月27日(土) 9時00分~9時50分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 神崎 恒一 (杏林大学医学部高齢医学)

認知症と生活習慣病

羽生 春夫

総合東京病院認知症疾患研究センター

PL8 プレナリーレクチャー 8

11月27日(土) 9時00分~9時50分 (第4会場 5階 G502)

座長: 関島 良樹 (信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科)

認知症の予防・治療に向けた創薬研究

富田 泰輔

東京大学大学院薬学系研究科

PL9 プレナリーレクチャー 9

11月28日(日) 9時00分~9時50分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

30年にわたるアルツハイマー病の研究史『アルツハイマー征服』を執筆して

下山 進

ノンフィクション作家/上智大学文学部新聞学科

PL10 プレナリーレクチャー 10

11月28日(日) 9時00分~9時50分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 新美 芳樹 (東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室)

The AD Workbench: A platform for sharing valuable dementia data

Tetsuyuki Maruyama

Alzheimer's Disease Data Initiative (ADDI)

PL11 プレナリーレクチャー 11

11月28日(日) 9時00分～9時50分 (第4会場 5階 G502)

座長: 小野寺 理 (新潟大学脳研究所)

認知症の薬物治療の最先端

下濱 俊

医療法人社団慈誠会慈誠会記念病院

【学術教育講演】

EL1 学術教育講演 1

11月26日(金) 10時00分～10時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 秋下 雅弘 (東京大学大学院医学系研究科)

認知症未来社会創造センター

鳥羽 研二

東京都健康長寿医療センター

EL2 学術教育講演 2

11月26日(金) 11時00分～11時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 藤本 直規 (医療法人藤本クリニック)

若年性認知症の諸課題

栗田 主一

東京都健康長寿医療センター研究所

EL3 学術教育講演 3

11月26日(金) 14時10分～15時00分 (第5会場 5階 G510)

座長: 上村 直人 (高知大学)

認知症高齢者と自動車運転免許: 現状と今後の展望

三村 将

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

EL4 学術教育講演 4

11月26日(金) 15時10分～16時00分 (第5会場 5階 G510)

座長: 内海久美子 (砂川市立病院認知症疾患医療センター)

認知症疾患医療センターの現状と将来像

古田 光

東京都健康長寿医療センター精神科

EL5 学術教育講演 5

11月27日(土) 9時00分～9時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 本間 昭 (お多福もの忘れクリニック)

認知症ケアの現在と未来～BPSDを予防し生活障害を減らす

山口 晴保

認知症介護研究・研修東京センター

EL6 学術教育講演 6

11月27日(土) 10時00分～10時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 今井 幸充 (医療法人社団翠会和光病院)

認知症ケアレジストリとその活用

數井 裕光

高知大学医学部神経精神科学講座

EL7 学術教育講演 7

11月27日(土) 11時00分～11時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 西村 正樹 (滋賀医科大学神経難病研究センター)

ヒト認知症脳組織由来の細胞外小胞における疾患関連タンパク質ネットワークの解明

池津 庸哉

メイヨークリニックフロリダ校神経科学科

EL8 学術教育講演 8

11月28日(日) 9時00分～9時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 石井 伸弥 (広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座)

認知症施策推進大綱と政策の動向

田中 稔久

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課

EL9 学術教育講演 9

11月28日(日) 10時00分～10時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 東海林幹夫 (公益財団法人老年病研究所附属病院認知症センター)

アルツハイマー病の病態と治療

玉岡 晃

筑波記念病院脳神経センター

EL10 学術教育講演 10

11月28日(日) 11時00分～11時50分 (第5会場 5階 G510)

座長: 川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

前頭側頭型認知症と CBD, PSP

新井 哲明

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

【シンポジウム】

シンポジウム 1 認知症神経病理イメージングのフロンティア

11月26日(金) 10時00分～12時00分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 島田 齊 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター／
量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)

伊藤 健吾 (国立長寿医療研究センター)

S1-1 Comprehensive PET imaging for diverse tau pathologies with PM-PBB3

新潟大学脳研究所附属統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野 島田 齊

- S1-2 [¹⁸F]NAV4694 アミロイドプローブと AHEAD A3-45 study
東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム 石井 賢二
- S1-3 Methods and Future Directions for Evaluation of Tau PET Signal
Clinical Development, Avid Radiopharmaceuticals, Alzheimer's Disease Development Unit, Eli Lilly and Company, USA
Michael J. Pontecorvo
- S1-4 α シヌクレイン病変の新規 PET プローブ開発
量子科学技術研究開発機構 樋口 真人

シンポジウム 2 多因子生活習慣介入による認知症予防

11月26日(金) 10時00分~12時00分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 荒井 秀典 (国立長寿医療研究センター)
古和 久朋 (神戸大学大学院保健学研究科)

- S2-1 認知症発症に関わる生活習慣病について: 久山町研究の成績を中心に
九州大学医学研究院衛生・公衆衛生学分野 二宮 利治
- S2-2 J-MINT 研究の概要: 多因子介入による認知症の病態に応じた予防戦略
国立長寿医療研究センター 櫻井 孝
- S2-3 ハイリスク高齢者に対する多因子介入による認知症予防
神戸大学大学院保健学研究科 古和 久朋
- S2-4 地域在住高齢者に対する多因子介入による認知症予防の取り組み
横浜市立大学保健管理センター 小田原俊成

シンポジウム 3 オートファジー・リソソームと神経変性疾患

11月26日(金) 10時00分~12時00分 (第4会場 5階 G502)

座長: 桑原 知樹 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)
株田 智弘 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部)

- S3-1 新規の膜透過型オートファジーと神経変性疾患
国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 株田 智弘
- S3-2 オルタナティブオートファジーと神経変性疾患
東京医科歯科大学難治疾患研究所病態細胞生物 清水 重臣
- S3-3 パーキンソン病における新規リソソームストレス応答機構
東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 桑原 知樹
- S3-4 LRRK2 によるリソソーム局在化制御と生物学的意義
東京大学大学院薬学系研究科脳神経疾患治療学社会連携講座 伊藤 弦太
- S3-5 新規マイトファジープローブ mito-SRAI を用いたマイトファジーの可視化と検出
理化学研究所 CBS 細胞機能探索技術研究チーム 片山 博幸

シンポジウム 4 体液バイオマーカーの進歩, 臨床への実用化に向けて

11月26日(金) 14時10分~16時10分 (第1会場 4階 ホールC)

座長: 春日 健作 (新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学)
徳田 隆彦 (量子科学技術研究開発機構)

- S4-1 体液バイオマーカーによる ATN 分類とその課題
新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学 春日 健作
- S4-2 質量分析による血液 Aβ の測定とその実用化への過程
国立長寿医療研究センターバイオマーカー開発研究部 中村 昭範
- S4-3 Tau, pTau and MTBR-tau biomarkers in Alzheimer's Disease and other tauopathies
米国ワシントン大学医学校 佐藤 千尋
- S4-4 超高感度 digital ELISA による血液バイオマーカーの定量
量子科学技術研究開発機構 徳田 隆彦

S4-5 Current state of CSF and blood biomarkers in Alzheimer's disease

F. Hoffmann-LaRoche/Genentech, Basel, Switzerland Tobias Bittner

シンポジウム 5 東日本大震災, COVID-19 感染症と認知症医療

11月26日(金) 14時10分~16時10分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 森 啓 (長岡崇徳大学, 大阪市立大学医学部)
荒井 啓行 (東北大学加齢医学研究所)

S5-1 東日本大震災後の仮設住宅・災害復興住宅に居住する高齢者の健康調査と認知症予防

東北医科薬科大学医学部地域医療学 古川 勝敏

S5-2 COVID-19による認知症診療の現状と対策

藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科 武地 一

S5-3 COVID-19による認知症初期集中支援への影響と対策

大阪市福祉局 中西 亜紀

S5-4 認知症専門医からみたパンデミックの影響と今後のあるべき対策

東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室 新美 芳樹

シンポジウム 6 神経変性・精神疾患克服を目指すアカデミア・バイオベンチャー

11月26日(金) 14時10分~16時10分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 富山 貴美 (大阪市立大学大学院医学研究科認知症病態学)
齊藤 貴志 (名古屋市立大学大学院医学研究科)

S6-1 神経オルガノイドを用いたALS創薬応用

株式会社 Jiksak Bioengineering 川田 治良

S6-2 ベンチャー起業によるヒト神経幹細胞オリゴジーンを用いた神経疾患治療への取り組み

株式会社オリゴジェン 城戸 常雄

S6-3 尿からの精神疾患診断

株式会社 RESVO 大西 新

S6-4 バイオテックの社会実装に必要なエコシステム

株式会社リバナス 井上 浄

シンポジウム 7 認知症 CPC

11月26日(金) 14時10分~16時10分 (第4会場 5階 G502)

座長: 齊藤 祐子 (東京都健康長寿医療センター研究所神経病理 (高齢者ブレインバンク))
高尾 昌樹 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部・総合内科)

S7-1 認知機能の長期経過を, 臨床と画像で長期観察し得た, 高齢者一剖検例

臨床: 東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク 村山 繁雄

Discussant: 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム 石井 賢二

病理: 東京都健康長寿医療センター研究所神経病理 (高齢者ブレインバンク) 齊藤 祐子

S7-2 緩徐進行性の不随意運動と認知機能障害を呈し, 17年の経過で死亡した40歳女性剖検例

臨床・Discussant: 宮崎大学医学部脳神経内科 中里 祐毅

病理: 国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部 佐野 輝典

シンポジウム 8 新規MRI計測・解析技術の認知症への応用

11月27日(土) 10時00分~12時00分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 岡村 信行 (東北医科薬科大学医学部薬理学)
富田 泰輔 (東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室)

S8-1 アルツハイマー病の早期診断を目指した鉄沈着と水動態のMRI解析

北海道大学大学院医学研究院画像診断学教室 工藤 與亮

- S8-2 NODDI, 構造ネットワーク, 脳年齢
福島県立医科大学学生体機能イメージング講座 松田 博史
- S8-3 アルツハイマー病の一次, 二次予防を目指した新規 MRI 計測技術とその応用
東北大学加齢医学研究所臨床加齢医学研究分野 瀧 靖之
- S8-4 正常加齢と早期認知症の脳内回路所見の相違から見た認知症の病態
藤田医科大学医学部脳神経内科 渡辺 宏久
- S8-5 フッ素 MRI によるアミロイド β ・タウ病理の画像化研究
滋賀医科大学神経難病研究センター 柳沢大治郎

シンポジウム 9 認知機能評価の問題点と将来

11月27日(土) 10時00分~12時00分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

- S9-1 臨床神経心理士の学会認定制度について
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 池田 学
- S9-2 臨床研究における認知機能評価の品質管理
東京都健康長寿医療センター脳神経内科 井原 涼子
- S9-3 認知機能検査の限界と今後の方向性
大阪大学大学院連合小児発達学研究所行動神経学・神経精神医学寄附講座 森 悦朗
- S9-4 コンピュータ/スマートフォンを用いた認知機能検査の可能性
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 岩田 淳

シンポジウム 10 液-液相分離 (LLPS) が関わる TDP-43, FUS の凝集と神経変性

11月27日(土) 10時00分~12時00分 (第4会場 5階 G502)

座長: 永井 義隆 (近畿大学医学部脳神経内科)

橋本 唯史 (東京大学大学院医学系研究科認知症先進予防治療学講座)

- S10-1 TDP-43 の病的凝集のトリガーとしての液-液相分離 (LLPS) とその制御機構
近畿大学医学部脳神経内科 永井 義隆
- S10-2 TDP-43 のシード非依存的な細胞内蓄積メカニズム
東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 野中 隆
- S10-3 FUS low-complexity ドメインのクロス β 線維形成機構の解明
テキサス大学生化学 加藤 昌人
- S10-4 FUS の多量体化と神経毒性・伝播
東京大学大学院医学系研究科認知症先進予防治療学講座 橋本 唯史

シンポジウム 11 食と認知症予防

11月27日(土) 13時20分~15時20分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 鈴木 利治 (北海道大学大学院薬学研究院認知症先進予防・解析学)

若林 朋子 (東京大学大学院医学系研究科認知症先進予防治療学)

- S11-1 共役リノール酸によるアルツハイマー病の予防・治療効果
北海道大学大学院薬学研究院認知症先進予防・解析学 鈴木 利治
- S11-2 認知を支える神経新生と脂質栄養
東北大学大学院医学系研究科 大隅 典子
- S11-3 栄養学的な視点からみた軽度認知障害: 血漿アミノ酸プロファイルからのアプローチ
新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター 池内 健
- S11-4 肥満・糖尿病やインスリンシグナル障害とアルツハイマー病の病理形成
東京大学大学院医学系研究科認知症先進予防治療学 若林 朋子

シンポジウム 12 プロドローマル DLB/synucleinopathy

11月27日(土) 13時20分～15時20分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 勝野 雅央 (名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)

高橋 良輔 (京都大学医学研究科臨床神経学)

S12-1 J-PPMI から見えてきたこと

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科 高橋 祐二

S12-2 レビー小体病ハイリスクコホート

名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学 勝野 雅央

S12-3 レム睡眠行動障害と嗅覚障害

東京女子医科大学脳神経内科 飯嶋 睦

S12-4 動物モデルからみた prodromal synucleinopathy

京都大学医学部附属病院脳神経内科 山門 穂高

シンポジウム 13 拡大する Non-coding リpeat 病の疾患概念

11月27日(土) 13時20分～15時20分 (第4会場 5階 G502)

座長: 長谷川隆文 (東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野)

木下 彩栄 (京都大学医学研究科)

S13-1 筋強直性ジストロフィーの中樞神経病態

大阪大学医学系研究科神経内科学 中森 雅之

S13-2 新しいリpeat 伸長病とロングリードシーケンシング

東京大学神経内科学 石浦 浩之

S13-3 ショウジョウバエモデルによる C9orf72 関連 ALS/FTD の病態解明

近畿大学医学部脳神経内科 上山 盛夫

S13-4 RNA 結合化合物によるリpeat 病の治療戦略

大阪大学産業科学研究所 中谷 和彦

シンポジウム 14 認知症医療・介護におけるキャリア形成・ダイバーシティ推進

11月27日(土) 13時20分～15時20分 (第5会場 5階 ホールG510)

座長: 中西 亜紀 (大阪市福祉局)

松村美由起 (東京女子医科大学附属成人医学センター)

S14-1 女性医療人のキャリア形成: 東京女子医科大学の取り組み

東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター 肥塚 直美

S14-2 ワーキングマザーの底力

兵庫医科大学精神科神経科学講座 宇和 典子

S14-3 ジェンダー平等とダイバーシティ推進への日本神経学会の取り組みと ALBA の紹介

東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所 渡部 文子

S14-4 認知症医療とケアとこれからの社会

東京慈恵会医科大学 繁田 雅弘

シンポジウム 15 疾患修飾薬のグローバル開発状況

11月28日(日) 10時00分～12時00分 (第1会場 4階 ホールC)

座長: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

山田 正仁 (九段坂病院)

S15-1 Targeting amyloid and tau across the AD clinical spectrum: Updates from Roche

F. Hoffmann-La Roche, Ltd., Basel, Switzerland Geoffrey A. Kerchner

S15-2 Clinical, biomarker, and safety outcomes in the lecanemab Phase 2 OLE

Clinical Research, Neurology Business Group, Eisai, Inc., USA Michael C. Irizarry

S15-3 Evaluation of aducanumab efficacy in early Alzheimer's disease

Biogen, Cambridge, MA, USA Samantha Budd Haerberlein

S15-4 Donanemab : Rapid and sustained reduction in plasma P-tau217 levels

Eli Lilly and Company, Indianapolis, USA/Avid Radiopharmaceuticals, Philadelphia, USA Mark A. Mintun

シンポジウム 16 認知症のゲノム医療

11月28日(日) 10時00分~12時00分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

S16-1 APOE の遺伝型とミスセンスレアバリエーション: 臨床応用への可能性

新潟大学脳研究所 宮下 哲典

S16-2 Large-scale genomic analysis for Alzheimer's disease in Japanese

Medical Genome Center, Research Institute, National Center for Geriatrics and Gerontology, Obu, Japan Kouichi Ozaki

S16-3 認知症ポリジェニック解析による病態の層別化

大阪大学大学院医学系研究科ゲノム情報学共同研究講座 菊地 正隆

S16-4 DIAN/DIAN-TU

東京都健康長寿医療センター脳神経内科 井原 涼子

S16-5 iPS 細胞研究から認知症ゲノム医療へ

京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門 井上 治久

シンポジウム 17 炎症・ミクログリアと認知症

11月28日(日) 10時00分~12時00分 (第4会場 5階 G502)

座長: 山中 宏二 (名古屋大学環境医学研究所)

佐原 成彦 (量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所)

S17-1 アルツハイマー病における全身・神経炎症応答

名古屋大学環境医学研究所 山中 宏二

S17-2 神経炎症とミクログリア

名古屋大学医学系研究科機能組織学 木山 博資

S17-3 認知症における恒常性ミクログリア動態

量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究部 佐原 成彦

S17-4 神経炎症とアルツハイマー病

名古屋市立大学医学部脳神経科学研究所 齊藤 貴志

S17-5 光酸化反応によるミクログリアを介したアミロイド除去

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学 堀 由起子

シンポジウム 18 Propagation 2021

11月28日(日) 13時20分~15時20分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 長谷川成人 ((公財) 東京都医学総合研究所)

山田 薫 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

S18-1 タウ, α シヌクレインのプリオン様伝播

(公財) 東京都医学総合研究所 長谷川成人

S18-2 プリオン様伝播の制御因子はなにか

同志社大学大学院脳科学研究科 貫名 信行

S18-3 脳内外の免疫細胞によるタウ凝集体を有する神経細胞の貪食とクリアランス

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門量子生命科学研究所
量子神経マッピング制御グループ 田桑 弘之

S18-4 Aquaporin-4 がタウ蓄積と神経変性に果たす役割

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 山田 薫

シンポジウム 19 治験即応コホート

11月28日(日) 13時20分～15時00分 (第3会場 5階 ホールD5)

座長: 新美 芳樹 (東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室)

加藤 隆司 (国立長寿医療研究センター放射線診療部)

S19-1 オーバービュー

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 岩坪 威

S19-2 データ活用による治験即応コホート研究促進

東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻基礎神経医学講座 佐藤謙一郎

S19-3 Centiloid scale によるアミロイド PET の半定量評価

国立長寿医療研究センター放射線診療部/脳機能画像診断開発部 加藤 隆司

シンポジウム 20 認知機能低下に対する脳神経外科的治療

11月28日(日) 13時20分～15時20分 (第4会場 5階 G502)

座長: 櫻 篤 (高槻病院リハビリテーションセンター)

中根 一 (帝京大学医学部附属溝口病院脳神経外科)

S20-1 正常圧水頭症; Glymphatic system の概念で水頭症治療は将来変化するか

滋賀医科大学脳神経外科学講座 山田 茂樹

S20-2 脳血管障害による認知機能障害: 頸動脈狭窄症, 硬膜動静脈瘻における外科治療の効果

富山大学脳神経外科 秋岡 直樹

S20-3 長期間てんかん関連性腫瘍の認知機能と治療効果

札幌医科大学医学部脳神経外科 三國 信啓

S20-4 脳神経外傷と高次脳機能障害/認知症: 社会の変化から考える

山口大学医学部先進温度神経生物学講座 鈴木 倫保

シンポジウム 21 バイオマーカー結果開示をめぐる諸問題

11月28日(日) 13時20分～15時20分 (第5会場 5階 G510)

座長: 石井 賢二 (東京都健康長寿医療センター研究所)

池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

S21-1 認知症バイオマーカー診断の医学的意義とガイドライン

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター 池内 健

S21-2 臨床研究と診療におけるバイオマーカー結果開示の実際と課題

東京都健康長寿医療センター脳神経内科 井原 涼子

S21-3 認知症バイオマーカー結果開示をめぐる倫理的問題

東京大学医学部医療倫理学分野 中澤 栄輔

S21-4 バイオマーカー結果開示をめぐる諸問題: 患者・家族の立場からの考察

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター連携システム室 堀部賢太郎

S21-5 一般市民の立場から考える開示問題

読売新聞東京本社編集局医療部 本田麻由美

【学会賞受賞講演】

11月28日（日） 9時00分～10時00分（第1会場 4階 ホールC）

座長：遠山 育夫（滋賀医科大学）

和田 健二（川崎医科大学認知症学）

基礎 脳血管を標的とした認知症治療法開発戦略

国立循環器病研究センター脳神経内科 服部 頼都

臨床 神経核内封入体病（NIID）の臨床病理像の解析および原因遺伝子同定

愛知医科大学加齢医科学研究所 曾根 淳

【ディベート・セッション】

ディベート・セッション1 徹底討論セッション（臨床）

11月27日（土） 13時20分～15時20分（第1会場 4階 ホールC）

座長：岩田 淳（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

秋山 治彦（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）

DS1-1 Aducanumab とは何か

東京都健康長寿医療センター脳神経内科 岩田 淳

DS1-2 “希望の光は届いたけれど…” 認知症の当事者（本人・家族）の視点から

（公社）認知症の人と家族の会 花俣ふみ代

DS1-3 アミロイド抗体薬治療の経験から：臨床使用上の問題点

稲毛神経内科・メモリークリニック 吉山 容正

DS1-4 疾患修飾薬治療に向けたバイオマーカー診断の課題

東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム 石井 賢二

DS1-5 ARIA, CAA の病態と診断

三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学 冨本 秀和

DS1-6 社会政策の観点から

東京都健康長寿医療センター研究所 栗田 圭一

DS1-7 認知症治療の『価値評価』—費用対効果評価ではない、価値評価とは？—

横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット／東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 五十嵐 中

指定発言1 メディア・社会・一般の方の視点から

読売新聞東京本社編集局医療部 本田麻由美

指定発言2 大綱「共生と予防」の流れの中での Aducanumab の位置づけ、意義

広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座 石井 伸弥

指定発言3 診断後に継続的に必要なこと

医療法人藤本クリニック 藤本 直規

指定発言4 対象にならなかった人・家族への心理的サポート

松本診療所（ものわすれクリニック） 松本 一生

指定発言5 老年医学の観点から

総合東京病院認知症疾患研究センター 羽生 春夫

指定発言6 MCI への非薬物的取り組み

筑波大学 新井 哲明

指定発言7 新たな認知症治療が地域に及ぼす影響と行政の理解

大阪市福祉局 中西 亜紀

指定発言8

東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室 新美 芳樹

指定発言9

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 岩坪 威

Closing

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 秋山 治彦

ディベート・セッション2 Hot topic 徹底討論 タンパク質蓄積病態に影響するファクターとは

11月28日(日) 10時00分～12時00分 (第2会場 7階 ホールD7)

座長: 里 直行 (国立長寿医療研究センター)
野中 隆 (東京都医学総合研究所)

DS2-1 病理から見たタンパク質蓄積

脳神経内科はつた 初田 裕幸

DS2-2 虚血モデルにおける TDP-43 の発現

三重大学医学部附属病院認知症センター 新堂 晃大

DS2-3 TDP-43 の蓄積による生理機能障害メカニズム

大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学 長野 清一

DS2-4 アルツハイマー病におけるアミロイドβおよびタウ蓄積病態形成とミクログリアの関与

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学 高鳥 翔

DS2-5 糖尿病と認知症—TREM2 変化と老人班変化

国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター分子基盤研究部/
大阪大学連携大学院加齢神経医学 里 直行

【市民公開講座】

いま知りたい認知症のこと

11月28日(日) 14時30分～16時00分 (第1会場 4階 ホールC)

座長: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)
岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

あらためて知りたい! 認知症について

川崎医科大学認知症学 和田 健二

認知症を見る(観る, 診る)!

新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野 島田 斉

認知症研究ってどんなことをしているの?

東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室 新美 芳樹

【モーニングセミナー】

モーニングセミナー 1 認知症の人と家族のケアをとりまく国際情勢：認知症進行とそのインパクト

11月27日（土） 8時00分～8時50分（第4会場 5階 G502）

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：新美 芳樹（東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室）

演者：認知症ケアの社会費用：世界の推計と国際比較

中西 三春（東北大学医学部・医学系研究科精神看護学分野）

認知症の社会的負担軽減に向けた神戸プロジェクト

古和 久朋（神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域）

（概要）国際アルツハイマー病協会の推計では、2015年で認知症の社会費用は年間8180億アメリカドル、2030年には2兆ドルに達すると見込まれている。GERAS研究はよりケアの実態に即した社会費用の評価を、複数の国で共通の手法を用いて実施してきた。本発表では日本のベースライン評価を他国と比較検証する。また18か月後のフォローアップ評価の結果を紹介する。

認知症の社会負担軽減のためには、認知症の高リスク高齢者を医療機関の受診以前に発見し、かつ効果的な介入を行い、その機能を維持することが必須である。本講演では基本チェックリスト、CFI（Cognitive Function Instrument）、EQ5Dを用いた高リスク群高齢者のスクリーニングの有用性について報告したい。

モーニングセミナー 2 認知症診療のポイント～診断とその後の支援に画像検査を活かす～

11月28日（日） 8時00分～8時50分（第4会場 5階 G502）

共催：富士フィルム富山化学株式会社

後援：日本脳神経核医学研究会、日本核医学会

座長：三村 将（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

演者：和田 健二（川崎医科大学認知症学教室）

（概要）超高齢化社会を迎えたわが国では認知症高齢者の増加に伴い、認知症疾患への関心が高まってきている。認知症診療においては認知症の状態のみならず軽度認知障害（MCI）などの早期の状態に対する対応も求められる時代となった。認知症診療の第一歩は、認知症の有無、症状や重症度を包括的に把握することである。包括的な評価により治療標的となる症状や治療介入のポイントが明らかとなり診断後支援に繋がる。また、この過程において治療可能な認知症を見逃さないことや、背景となる疾患の病型診断を可能な限り行うことが重要である。

本講演ではMCIや認知症が疑われた場合の診断やその後の対応について画像検査の有用性を含め概説する。

【ランチョンセミナー】

ランチョンセミナー 1 認知症領域におけるプロテインパチーの病因解明 Up to Date

11月26日（金） 12時20分～13時10分（第1会場 4階 ホールC）

共催：エーザイ株式会社

座長：秋山 治彦（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部）

演者：小野賢二郎（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学(脳神経内科学)）

（概要）アルツハイマー病（Alzheimer's disease：AD）研究・治療の方向性は、今までの神経伝達物質からのアプローチから疾患修飾療法を目指した病理学、生化学からのアプローチに移ってきている。ADの病理学的特徴としてアミロイドβ蛋白（Aβ）を主成分とする老人斑、タウ蛋白を主成分とする神経原線維変化、そして神経細胞脱落があげられる。最近、蛋白凝集過程においてsecondary nucleationやcross-seeding effectなどプロテインパチーの病因に関連する重要な研究成果も出てきている。これらの知見は、疾患修飾療法の開発だけでなく臨床試験の効果を考察する意味でも重要である。

ランチョンセミナー 2 認知機能維持におけるアミノ酸・タンパク質摂取の重要性

11月26日（金） 12時20分～13時10分（第2会場 7階 ホールD7）

共催：味の素株式会社

座長：富田 泰輔（東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室）

演者：樋口 真人（量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門量子医科学研究所脳機能イメージング研究部）

（概要）タンパク質摂取が高齢者の脳機能維持に重要であることが報告されているが詳細な関係は分かっていない。我々は、高齢者におけるタンパク質摂取と脳機能や認知症病理との関係を明らかにすべく、脳加齢および認知症病態の非臨床評価系を用いて、タンパク質栄養や特定の必須アミノ酸組成物が与える影響について検討を行った。タンパク質栄養不良により神経機能低下や神経脱落が増悪すること、また特定のアミノ酸組成物により、それらの増悪が抑制されることを見出した。本講演では、認知機能とタンパク質・アミノ酸栄養について、この特定の必須アミノ酸組成物の作用と健康な高齢者を対象に行った臨床試験結果などを紹介する。

ランチョンセミナー 3 認知症バイオマーカーの新しい考え方：適正使用から疾患修飾薬を見据えた展望

11月26日（金） 12時20分～13時10分（第3会場 5階 ホールD5）

共催：富士レビオ株式会社

座長：岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野）

演者：池内 健（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）

（概要）認知症の背景病理を反映するバイオマーカー検査所見を組み入れることで認知症の診断精度が向上している。脳脊髄液バイオマーカーに関する高いエビデンスが集積されており、認知症の臨床現場における実用化が進んでいる。並行して、血液バイオマーカー開発も進められており、今後、実用化に向けたエビデンスの構築が期待される。現在開発が進められている疾患修飾薬が効果を発揮するためには、治療薬の標的となる分子が脳内に存在することをバイオマーカーにより確認することが推奨されるであろう。認知症に対する脳脊髄液・血液バイオマーカーを適正に使用しながら、認知症診療にどのように活用していくべきかを本セミナーで議論したい。

ランチョンセミナー 4 アミロイドPETの読影と定量評価

11月26日（金） 12時20分～13時10分（第4会場 5階 G502）

共催：GEヘルスケア・ジャパン／日本メジフィジックス株式会社

座長：石井 賢二（東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム）

演者：松田 博史（公立大学法人福島県立医科大学大学生体機能イメージング講座）

（概要）アミロイドPETの読影においては陽性か陰性かを判定する。 ^{18}F -flutemetamol PETの判定では①後部帯状回から楔前部②内側前頭前野③頭頂葉皮質④側頭葉皮質⑤線条体の5領域のうち1領域でも有意な集積がみられれば陽性とする。ただし、視覚判定で迷う例が10%程度にみられる。この視覚判定を補う目的で、この5領域全体の集積程度を0-100段階で示すセンチロイド（CL）スケールと呼ばれる定量評価が役立つ。CLスケールは病理所見との対比がなされており、陽性のカットオフ値は20前後と報告されている。本セミナーでは、アミロイドPET読影法とCLスケール算出のためのソフトウェアについて述べる。

ランチョンセミナー 5 認知機能・海馬容積の加齢変化とその栄養学的緩衝要因を探る地域住民コホート研究

11月26日(金) 12時20分～13時10分 (第5会場 5階 G510)

共催: サントリーウエルネス株式会社/サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

座長: 鷺見 幸彦 (国立長寿医療研究センター病院)

演者: 大塚 礼 (国立長寿医療研究センター研究所老化疫学研究部)

(概要) 食事は誰もが生涯を通して営む基本的な生活習慣であり、認知症の発症のみならず重症化予防にも影響を与えていると考えられる。本講演では、地域から無作為抽出された中高年者約4,000人を対象とした「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究 (NILS-LSA)」で得られた一般住民の認知機能や海馬容積の加齢変化に関する統計量と、認知機能低下や海馬萎縮を緩衝する可能性が示された食・栄養学的要因を紹介する。これらNILS-LSAでの知見と国内外の栄養疫学的研究成果を踏まえ、認知機能低下抑制・重症化予防に寄与する食事について考察を深める。

ランチョンセミナー 6 タウ病変を伴う認知症疾患の生化学構造分類

11月27日(土) 12時20分～13時10分 (第1会場 4階 ホールC)

共催: エーザイ株式会社メディカル本部

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学分野)

演者: 長谷川成人 (公益財団法人東京都医学総合研究所 脳・神経科学研究分野)

(概要) タウの異常蓄積病変を伴う神経変性疾患はタウオパチーと総称される。アルツハイマー病のほか、ピック病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症など様々な疾患が含まれる。タウの病変は多様であるが、疾患ごとに蓄積細胞や形態、生化学的特徴が異なり、疾患の神経病理学的分類に用いられている。いずれの疾患においてもタウの病変分布と症状や進行に密接な関係が見いだされており、タウの異常は神経変性の中心的原因と考えられる。近年、患者脳内から単離されたタウ線維のクライオ電顕解析によって、疾患ごとに特徴的なタウの構造が明らかとなってきた。本セミナーでは疾患特徴的なタウ線維構造について最新の知見を紹介したい。

ランチョンセミナー 7 アルツハイマー病の DMT 登場を見据えたバイオマーカーの最新知見

11月27日(土) 12時20分～13時10分 (第2会場 7階 ホールD7)

共催: ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社/中外製薬株式会社

座長: 清水聡一郎 (東京医科大学高齢総合医学分野)

演者: 春日 健作 (新潟大学遺伝子機能解析学分野)

(概要) これまでアルツハイマー病に対する疾患修飾薬 (DMT) が十分な成果をあげられなかった理由として、適切な症例に対して、適切な時期に介入することができなかったためと考えられている。そのため、臨床症状によらず脳内の病理を反映するバイオマーカーの重要性が認識されるに至った。近年、アミロイドβ沈着 (A)、病的タウ蓄積 (T)、神経変性 (N) のそれぞれをバイオマーカーにより評価し、アルツハイマー病を認知機能にかかわらず生物学的に定義するATNシステムが提唱されている。本セミナーでは、疾患修飾薬の登場を見据え、ATNシステムの整理と最新の話題について、当施設のデータを踏まえて述べたい。

ランチョンセミナー 8 ポリファーマシーの「傾向と対策」～抑肝散をどう使用するか～

11月27日（土） 12時20分～13時10分（第3会場 5階 ホールD5）

共催：株式会社ツムラ

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

演者：石田 康（宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野）

（概要）ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態である。認知症診療はもとより、高齢者を対象とした診療におけるポリファーマシーの問題は、医療安全、医療倫理のみならず医療経済学的観点からも真摯に受け止め、医師の処方行動に反映すべき問題であると考えられる。本セミナーでは、不眠をはじめとする高齢者に頻発する精神症状に対する抑肝散の有用性を解説するとともに、使い方次第では抑肝散によりポリファーマシーの低減に繋がる可能性について私見を述べたいと考えている。

ランチョンセミナー 9 人工知能（AI）を用いた認知症診断の現状と未来

11月27日（土） 12時20分～13時10分（第4会場 5階 G502）

共催：株式会社FRONTEO

座長：戸田 達史（東京大学大学院医学系研究科神経内科学）

演者：三村 将（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

（概要）超高齢社会の到来した本邦において、認知症対策は喫緊の課題である。重症化予防には早期診断・早期介入が極めて重要である半面、診断には高い専門性が求められ、専門医の不足や偏在による地域間の受診機会の格差等の問題も指摘される。患者増に対応するためには、より容易な検査手段の確立や診断の標準化によって、より多くの医師／医療専門職が認知症診断／治療に携われる医療体制の構築が喫緊の課題である。同時に、受診者側の検査・受診への心理的ハードルを下げる必要性もある。人工知能（AI）を用いた診断は、これらの問題への解決策となり得るのか？ AI活用の可能性と、臨床現場での使用を促進する上で解決すべき課題について考える。

ランチョンセミナー 10 レビー小体型認知症の診断と治療～脳神経内科医の立場から～

11月27日（土） 12時20分～13時10分（第5会場 5階 G510）

共催：大日本住友製薬株式会社

座長：服部 信孝（順天堂大学医学部神経学講座）

演者：伊東 秀文（和歌山県立医科大学脳神経内科学講座）

（概要）Lewy小体型認知症（DLB）は多彩な臨床症状を呈する全身疾患であり、その多様性から、病初期における診断精度の低さや治療に対する反応の不安定さが問題となる。精神症状や気分障害が目立つ場合は精神科医が、パーキンソン症状が強い場合は脳神経内科・脳神経外科医が主として診療に当たっていると考えられるが、一方で、十分に治療できていない症状として、認知機能障害に加えて、精神科医はパーキンソン症状を、脳神経科医は幻覚・妄想等をあげている。本講演では、脳神経内科医の立場から、DLBの軽微な運動症状の捉え方について解説するとともに、精神症状に配慮したパーキンソン症状の治療の要点について考察し、ご聴講の先生方と議論を深めたい。

ランチョンセミナー 11 ATN バイオマーカーによるアルツハイマー病の早期診断

11月28日(日) 12時20分～13時10分 (第1会場 4階 ホールC)

共催：エーザイ株式会社

座長：数井 裕光 (高知大学医学部神経精神科学講座)

演者：岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

(概要) 臨床症状やMRI, 脳血流SPECTといった従来の検査では脳の中で生じる病理学的変化を確実に捉えることは極めて困難であるため、認知機能障害の背景にアルツハイマー病があるかを決定することは出来ない。つまりアルツハイマー病という確定診断はあくまでも剖検によって決定されてきた。そこに風穴を開けたのはアミロイド・タウイメージング, 脳脊髄液バイオマーカー検査の社会実装だが、これらは未だに広く一般的に受け入れられているわけではない。認知症診断, 診療の将来を考えた際、これらを考慮に入れた診断は極めて重要になるだろう。本セミナーでは総論から実際の症例, バイオマーカー検査結果の解釈などを含めて議論したい。

ランチョンセミナー 12 認知症診療における漢方薬の位置づけと可能性—BPSD およびREM睡眠行動異常性を中心に—

11月28日(日) 12時20分～13時10分 (第2会場 7階 ホールD7)

共催：クラシエ薬品株式会社

座長：大田 秀隆 (秋田大学高齢者医療先端医療センター)

演者：眞鍋 雄太 (神奈川歯科大学歯学部臨床科医科学講座認知症・高齢者総合内科)

(概要) 認知症性疾患罹患者の在宅介護において、これを破綻させる最大の要因が認知症に伴う心理・行動の障害 (BPSD) にあることは言うまでもない。医療者も苦勞するBPSD治療ではあるが、近年、漢方製剤の有用性を示唆するevidenceが蓄積されてきている。BPSD同様、睡眠障害および睡眠随伴症も、認知症性疾患診療において避けては通れない症状の一つであるが、非ベンゾジアゼピン系薬剤やオレキシン受容体拮抗薬だけでは、しばしば治療に行き詰まり、難渋することがある。本講では、BPSD治療および睡眠随伴症、特にRBDにおける漢方製剤の位置付けを、薬理学的機序、自験と既報を以て解説したく思う。

ランチョンセミナー 13 高齢発症てんかんの診断と治療の基本：認知症との鑑別・合併

11月28日(日) 12時20分～13時10分 (第3会場 5階 ホールD5)

共催：東和薬品株式会社

座長：相澤 仁志 (東京医科大学 神経学分野)

演者：谷口 豪 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター てんかんセンター)

(概要) 高齢化社会が加速度的に進行している本邦において認知症の予防・治療はますます重要になってきている。認知症の中にはいわゆる treatable dementia があり、早期に診断し治療することで認知症からの回復が期待できる。その一つが高齢発症てんかんであり、アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症、レビー小体型認知症などとは鑑別する必要がある。その一方で、認知症は高齢発症てんかんの原因となり、さらにその逆もあり得ることが最近わかってきている。いずれにせよ、認知症の専門家が高齢発症てんかんに遭遇する可能性は高く、適切な診断・治療するための基本について知っておくのは有益である。

ランチョンセミナー 14 老年病科医から見た認知症早期診断における脳血流 SPECT の役割

11月28日(日) 12時20分～13時10分 (第4会場 5階 G502)

共催：日本メジフィジックス株式会社

後援：日本脳神経核医学研究会・日本核医学会

座長：山田 正仁 (国家公務員共済組合連合会九段坂病院／金沢大学／東京医科歯科大学)

演者：亀山 祐美 (東京大学医学部附属病院老年病科)

(概要) 認知症の早期診断は、進行予防や疾患修飾薬による治療の可能性を考えると大変重要である。脳血流 SPECT には、画像統計解析で萎縮や血流低下を評価するソフトもあり、早期診断・病型診断に役立っている。病型診断を適切に行い、今後の進行を予測することで、患者本人や家族が「備える」時間を持つことができる。「備える」とは、資産管理、自動車運転の卒業、介護体制、災害時、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) などがあり、自験例を紹介する。また、診療所・オンラインでもできる安価、安全に認知症をスクリーニングするツールの研究として嗅覚検査、ABC 認知症スケール、見た目年齢、顔写真による AI 解析についても紹介する。

ランチョンセミナー 15 レビー小体型認知症の診断と治療～精神科医の立場から～

11月28日(日) 12時20分～13時10分 (第5会場 5階 G510)

共催：大日本住友製薬株式会社

座長：高橋 良輔 (京都大学大学院医学研究科臨床神経学 (脳神経内科))

演者：橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

(概要) レビー小体型認知症 (DLB) では、認知機能障害やパーキンソニズムに加えて、幻覚や妄想、抑うつ、アパシー、睡眠障害など活発な精神症状が病初期より認められる。精神症状は患者本人のみならず介護者にも多大な負担を及ぼすため、可能な限り早期に診断し対応することが望まれる。しかし抗精神病薬に対する過敏性を有する DLB では、薬剤の使用が制限され、実臨床において精神症状の治療に難渋することが少なくない。そこで本セミナーでは、DLB の精神症状を中心に、その症候と診断、治療について解説する。

【アフタヌーンセミナー】

アフタヌーンセミナー 1 認知症と不眠

11月26日(金) 16時30分～17時20分 (第2会場 7階 ホール D7)

共催：MSD 株式会社

座長：伊藤 洋 (学校法人慈恵大学)

演者：井上 雄一 (東京医科大学睡眠学講座／睡眠総合ケアクリニック代々木)

(概要) 高齢者では、加齢に伴う睡眠の浅化・分断傾向が生じ、概日リズム位相の振幅が減少・前進傾向を示すが、アルツハイマー型認知症 (AD) では、睡眠ならびに概日リズム調節に関わる腹外側視索前野や視交叉上核の神経脱落が顕著になるため、不眠はより顕在化し、重症例では短時間の睡眠-覚醒を繰り返す不規則型睡眠覚醒パターンを示すことが多い。また逆に、不眠/短時間睡眠傾向が長年持続すると、夜間の脳内 β -アミロイドの排泄が抑制され認知症発現リスクになるとの指摘もある。更に、不眠の治療管理に用いられる睡眠薬の中には、その使用で認知症状の顕在化を招く可能性も懸念されており、治療の適正化が望まれている。

アフタヌーンセミナー 2 リプログラミング技術と AI を用いた創薬研究開発

11月26日（金） 16時30分～17時20分 （第3会場 5階 ホールD5）

共催：IQVIA サービスーズ ジャパン株式会社

座長：下畑 享良（岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野）

演者：井上 治久（京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門）

（概要）細胞の運命転換により別の細胞を作製するリプログラミング技術と人工知能（AI）を用いることにより過去になかった可能性が誕生しています。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は永続的な運動ニューロン疾患であり、有効な治療薬の開発が急務となっています。私たちは、ALS の新たな治療薬を見つけるために、患者由来の多能性幹細胞（iPSC）を用いて、AI ベースの創薬アルゴリズムを開発しました。また、効果的な治療法の開発には、診断支援が有効です。この目的のために、私たちは、ALS 患者 iPSC パネルの運動ニューロンの「検出できない」変化を検出できる AI モデルを構築しました。

本セミナーでは、ALS 患者 iPSC パネルを用いた AI 創薬と診断支援の可能性についてお話しできればと思います。

アフタヌーンセミナー 3 超高齢社会におけるパーキンソン病治療マネジメント～認知機能をふまえて～

11月26日（金） 16時30分～17時20分 （第4会場 5階 G502）

共催：大塚製薬株式会社

座長：小野賢二郎（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（脳神経内科学））

演者：馬場 徹（国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科）

（概要）未曾有の超高齢社会に突入した本邦では、高齢のパーキンソン病患者が増加傾向にある。パーキンソン病では発症年齢によって多彩な臨床像を呈することが明らかとなっており、高齢発症パーキンソン病患者は運動症状が重度でドパミン補充療法への反応性が乏しく、発症早期から起立性低血圧や軽度認知機能障害といった非運動症状を伴い認知症発症リスクも高いとされる。本講演では、高齢発症パーキンソン病患者の臨床的特徴や疫学、病態に加え、治療における留意点や対策について概説する。

アフタヌーンセミナー 4 パーキンソン病における認知機能障害

11月26日（金） 16時30分～17時20分 （第5会場 5階 G510）

共催：武田薬品工業株式会社

座長：鈴木 正彦（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター脳神経内科）

演者：織茂 智之（上用賀世田谷通りクリニック）

（概要）James Parkinson の著書 AN ESSAY ON THE SHAKING PALSY の中には、“…: the senses and intellects being uninjured.” とあり、パーキンソン病では認知機能は障害されないとされていた。しかし現在、パーキンソン病における認知機能障害は進行期にはしばしば認められ、患者の ADL の障害のみならず介護者の負担という重要な問題をひきおこす症候と理解されている。パーキンソン病の経過中に認知症が現れる割合は、診断後 12 年で 60%、20 年で 83.5% に達するとされており、有病率は 24.5% と報告されている。本講演では、パーキンソン病における認知機能障害について、その症候、画像、診断、神経病理、治療について解説する。

アフタヌーンセミナー 5 認知症診療で知っておきたい法律の知識～診療現場からみた医事法の解説～

11月27日(土) 15時40分～16時30分 (第2会場 7階 ホールD7)

共催：エーザイ株式会社

座長：繁田 雅弘 (東京慈恵会医科大学精神医学講座)

演者：川畑 信也 (八千代病院愛知県認知症疾患医療センター)

(概要) 認知症診療では、高齢者虐待や身体拘束、遺産や相続に関わる係争、成年後見制度などのように法律と関連する領域が少なくない。法的に診療は患者と医療機関との間で締結される準委任契約とされるが契約は対等な立場にある当事者同士による権利義務関係であることから判断能力の低下した当事者は診療契約を結ぶことができるのだろうか。病名告知は診療契約に基づくことがその根拠とされるが診療契約が成立していない場合に病名告知の法的根拠はどこにあるのか。法的視点からみると認知症診療の現場では不確実な要素が多いともいえる。本講演では、医事法からみた医師患者関係ならびに病名告知や身体拘束の是非、医療過誤訴訟、成年後見制度の問題点などについて考えてみたい。

アフタヌーンセミナー 6 認知症における血液バイオマーカーと PET 画像診断の将来展望

11月27日(土) 15時40分～16時30分 (第3会場 5階 ホールD5)

共催：株式会社島津製作所

座長：加藤 隆司 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター放射線診療部)

演者：認知症の血液バイオマーカー：現状及び今後の展望

中村 昭範 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センターバイオマーカー開発研究部)

認知症診断における頭部用高性能 PET の将来展望

石井 一成 (近畿大学医学部放射線医学教室放射線診断学部門)

(概要) 近年の画像や体液バイオマーカー (BM) の進歩は、認知症の研究や診療に大きな変革をもたらしている。今後更に重要性が高まると考えられる以下の測定技術について概説する。

①脳内アミロイドβ (Aβ) 蓄積を高精度に捉える血液 BM が開発され、測定システムが薬機承認された。適正使用の普及やさらなる研究開発促進、タウ蓄積や神経変性を捉える血液 BM 開発も進んでいる。

②脳内 Aβ、タウ蓄積の局所分布の PET による画像化が可能になっているが、高感度・高分解能 PET 装置の開発により、より詳細に病態を探ることが可能になると期待されている。今回、島津製作所が開発した頭部用の TOF-PET 装置について有用性を紹介する。

アフタヌーンセミナー 7 アルツハイマー病と糖尿病：認知症の治療標的の可能性

11月27日(土) 15時40分～16時30分 (第4会場 5階 G502)

共催：小野薬品工業株式会社

座長：岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

演者：大八木保政 (愛媛大学大学院医学系研究科脳神経内科・老年医学講座)

(概要) アルツハイマー病 (AD) の治療標的として脳内に蓄積するアミロイドβ蛋白 (Aβ) やリン酸化タウ蛋白が考えられており、実際に、脳内の Aβ、特に Aβ オリゴマーを減少させる抗体治療薬では一定の効果が示されている。しかし、抗 Aβ 治療は認知症発症前～早期に限定された先制治療であり、中等症以上に進行した認知症に対する効果は示されていない。近年、AD 脳内では2型糖尿病的な神経細胞のインスリン抵抗性上昇が報告されており、AD は「3型糖尿病」や「脳の糖尿病」とも称されている。従って、AD 脳の糖尿病状態の改善により認知機能の改善が期待できる。本セミナーでは、私たちの知見も含めて、最近の研究状況についてお話ししたい。

アフタヌーンセミナー 8 多発性硬化症治療の Paradigm Shift

11月27日(土) 15時40分～16時30分 (第5会場 5階 G510)

共催: バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 千葉 厚郎 (杏林大学医学部脳神経内科学教室)

演者: 大橋 高志 (東京女子医科大学附属八千代医療センター脳神経内科)

(概要) 多発性硬化症 (MS) の治療は、従来は再発を減らし進行を遅らせることを目的として行われてきた。現在では、再発や進行がなく脳病巣の増加がないことに加えて、脳萎縮の進行や認知機能の低下がないことが MS の治療目標になっている。有効性の高い疾患修飾薬 (DMD) が使用できるようになった一方で、進行性多巣性白質脳症等の感染症のリスクも重要な課題となっている。MS 患者の『脳を守る』ためには、疾患活動性の評価、予後予測、DMD の効果判定や副作用モニタリングなどに関する多くの知識が必要である。本講演では、最新のデータを元に、長期予後を意識した DMD の選択について概説し、最適な治療戦略を提案する。

【オンラインシンポジウム】

オンラインシンポジウム 1 新しいケミカルバイオロジー手法の開発と神経変性疾患への展開

オンデマンド配信

座長: 内藤 幹彦 (東京大学大学院薬学系研究科タンパク質分解創薬)

石川 稔 (東北大学大学院生命科学研究科)

OS1-1 タンパク質を分解する新しい創薬技術

東京大学薬学部タンパク質分解創薬 内藤 幹彦

OS1-2 標的タンパク質分解薬におけるユビキチン分岐鎖と役割

星薬科大学先端生命科学研究科 大竹 史明

OS1-3 オートファジー誘導分子 (AUTAC)

東北大学大学院生命科学研究科 有本 博一

OS1-4 凝集性タンパク質を分解するストラテジー

東北大学大学院生命科学研究科 石川 稔

OS1-5 アミロイドβの凝集を標的とした創薬化学

和歌山県立医科大学薬学部 相馬 洋平

OS1-6 脳タンパク質凝集体の生体イメージング技術

京都大学大学院薬学研究科病態機能分析学分野 小野 正博

オンラインシンポジウム 2 幹細胞・オルガノイドに関連した内容

オンデマンド配信

座長: 六車 恵子 (関西医科大学 iPS・幹細胞応用医学講座)

坂口 秀哉 (理化学研究所生命機能科学研究センター,
理研 BDR-大塚製薬連携センター神経器官創出研究)

OS2-1 ヒト多能性幹細胞由来の神経オルガノイド—認知症研究に向けた応用への展望—

理化学研究所生命機能科学研究センター, 理研 BDR-大塚製薬連携センター神経器官創出研究 坂口 秀哉

OS2-2 脳オルガノイドを活用した脳内免疫環境変化の解析と認知症の病態解明への応用

京都薬科大学統合薬科学系 高田 和幸

OS2-3 リプログラミング技術を用いた認知症研究

京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門 井上 治久

OS2-4 iPS 細胞・オルガノイド関連技術を用いた神経変性疾患・認知症の病態解析

慶應義塾大学医学部生理学教室 岡野 栄之

オンラインシンポジウム 3 脳 - 末梢連関から探る生理と病態

オンデマンド配信

座長：鈴木 一博（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）
上野 将紀（新潟大学脳研究所システム脳病態学）

- OS3-1 延髄 C1 ニューロンを介する抗炎症効果
岐阜大学医学部生理学 安部 力
- OS3-2 中枢神経の障害による神経-免疫連関の変容
新潟大学脳研究所システム脳病態学 上野 将紀
- OS3-3 肝臓 - 脳 - 腸神経連関を介した新規腸管免疫制御機構の検討
慶應義塾大学医学部消化器内科 寺谷 俊昭
- OS3-4 迷走神経シグナルによる糖代謝制御
東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野 今井 淳太
- OS3-5 交感神経-免疫連関の生理と病態
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 鈴木 一博

オンラインシンポジウム 4 non-AD tauopathy：嗜銀顆粒性認知症と鑑別すべき疾患

オンデマンド配信

座長：川勝 忍（福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座）
横田 修（きのこエスポアール病院）

- OS4-1 嗜銀顆粒性認知症の臨床病理— TDP-43 病理例との鑑別や合併を含めて—
東京都健康長寿医療センター 齊藤 祐子
- OS4-2 嗜銀顆粒病の臨床病理：特に PSP との関係を含めて
きのこエスポアール病院精神科 横田 修
- OS4-3 神経原線維変化型老年期認知症の臨床病理
東京都医学総合研究所脳・神経科学分野認知症プロジェクト 河上 緒
- OS4-4 嗜銀顆粒性認知症と鑑別すべき疾患の神経放射線画像
国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太
- OS4-5 嗜銀顆粒性認知症の臨床診断は可能か？
福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座 川勝 忍

オンラインシンポジウム 5 てんかんと認知症の連関：超高齢社会の common diseases の邂逅 Dementia and Epilepsy：their interactions in super-aging society

オンデマンド配信

座長：松本 理器（神戸大学大学院医学研究科脳神経内科学）
葛谷 聡（京都大学大学院医学研究科臨床神経学（脳神経内科））

- OS5-1 Acute and chronic impact of neuronal excitation on tau release and propagation
Department of Neuropathology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Japan Kaoru Yamada
- OS5-2 Therapeutic potential for the regulation of neuronal hyperexcitability in AD
Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan Sakiho Ueda
- OS5-3 Silent Spikes in Alzheimer's Disease and Their Impact on AD Pathophysiology
Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, USA Alice D. Lam
- OS5-4 Association between epilepsy, stroke and dementia
Department of Neurology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Japan Tomotaka Tanaka

オンラインシンポジウム 6 認知症とデジタルヘルス

オンデマンド配信

座長：岩田 淳（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）
新美 芳樹（東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室）

OS6-1 ASSIST - Discovering Health and Lifestyle Risk Factors for Alzheimer's Disease and Mild Cognitive Impairment from Remote Study using a Mobile Assessment Tool

Savonix, Inc., Singapore / National University of Singapore Simon L. Collinson

OS6-2 ウェアラブルデバイスを用いた新たな認知症リスク因子の発掘

大分大学医学部脳神経内科学講座 木村 成志

OS6-3 まちづくりの取り組みにおけるオンラインツールの活用

認知症フレンドリーよこすか 玉井 秀直

OS6-4 LIFE と認知症の医療・介護

厚生労働省老健局老人保健課介護保険データ分析室 新田 惇一

オンラインシンポジウム 7 認知症フレンドリー社会に向けた潮流：マルチステークホルダーによるチャレンジ

オンデマンド配信

座長：栗田 主一（東京都健康長寿医療センター研究所）
堀田 聡子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）

OS7-1 我が国の政策的動向：認知症官民協議会に焦点を当てて

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課認知症総合戦略企画官 菱谷 文彦

OS7-2 加齢と経済活動－加齢が意思決定に与える影響と金融ジェロントロジーの貢献

慶應義塾大学経済学部 駒村 康平

OS7-3 京都府における認知症フレンドリー社会に向けた取り組み

京都府健康福祉部高齢者支援課 中村 早苗

OS7-4 認知症フレンドリーコミュニティに向けた事業デザイン～名古屋市北区の実践

名古屋市北区西部いきいき支援センター 鬼頭 史樹

OS7-5 当事者の思い・体験・知恵を中心に今と未来を拓く：認知症未来共創ハブを手がかりに

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 堀田 聡子

特別発言

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 藤田 和子

オンラインシンポジウム 8 認知症初期集中支援チームの課題と将来

オンデマンド配信

座長：鷺見 幸彦（国立長寿医療研究センター）
笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

OS8-1 認知症初期集中支援チームの課題と今後への期待

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課認知症総合戦略企画官 菱谷 文彦

OS8-2 こうべオレンジチームの現状と課題

神戸大学大学院保健学研究科 古和 久朋

OS8-3 地域包括ケアシステムにおける認知症初期集中支援チームの臨床的統合のあり方

兵庫県立大学大学院社会科学部研究科 筒井 孝子

OS8-4 認知症初期介入に関する認知症治療病院の現状と課題

かわさき記念病院 福井 俊哉

OS8-5 在宅療養支援診療所に設置した認知症初期集中支援チームの現状と課題

湘南いなほクリニック 内門 大丈

オンラインシンポジウム 9 共生の時代における認知症ケア～自立・自律の理念と実践

オンデマンド配信

座長：山口 晴保（社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター）

宮本 礼子（江別すずらん病院認知症疾患医療センター）

OS9-1 自助，互助，共助で乗り切る認知症—群馬県利根沼田地域での活動—

医療法人大誠会内田病院 田中 志子

OS9-2 ひとの自律と自立を支え共生社会を実現させるマルチモーダル・ケア：ユマニチュード

国立病院機構東京医療センター 本田美和子

OS9-3 認知症のある人が，本当に地域で生き生きと暮らしていくためにできることとは～クリニカルパスの視点から～

株式会社あおいけあ 加藤 忠相

OS9-4 共生ケアの理念とグループホームでの実践

有限会社グッドライフグループホームアウル 宮崎 直人

OS9-5 自立と自律を支える互恵ケア～事例を交えて

社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター 牧 陽子

【専門医試験対策講座】

専門医試験対策講座 1

オンデマンド配信

SE1 認知症の基礎と病理

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部・総合内科 高尾 昌樹

専門医試験対策講座 2

オンデマンド配信

SE2 アルツハイマー病と症候学

佐賀大学医学部内科学講座神経内科 原 英夫

専門医試験対策講座 3

オンデマンド配信

SE3 血管性認知症

横浜総合病院脳神経センター神経内科 山崎 貴史

専門医試験対策講座 4

オンデマンド配信

SE4 レビー小体型認知症

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院神経センター脳神経内科 高橋 牧郎

専門医試験対策講座 5

オンデマンド配信

SE5 前頭側頭葉変性症

東京慈恵会医科大学精神医学講座 品川俊一郎

専門医試験対策講座 6

オンデマンド配信

SE6 画像診断

東京医科大学高齢総合医学分野 清水聰一郎

専門医試験対策講座 7

オンデマンド配信

SE7 認知症の薬物療法

大阪大学大学院医学系研究科精神健康医学 工藤 喬

専門医試験対策講座 8

オンデマンド配信

SE8 認知症のリハビリテーションとケア

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターリハビリテーション科/

健康長寿支援ロボットセンター認知症支援・ロボット応用研究室 大沢 愛子

専門医試験対策講座 9

オンデマンド配信

SE9 認知症の社会環境・資源・倫理

広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座 石井 伸弥

専門医試験対策講座 10

オンデマンド配信

SE10 症例報告書の書き方

藤田医科大学七栗記念病院内科 脇田 英明